

1-6. 中・大型哺乳類の生息状況

1-6-1. 調査地点等 (図 1-6-1)

調査地の位置、調査日等について表 1-6-1 にとりまとめた。調査地は基本的に猛禽類調査と同じ場所とした。

調査手法はフィールドサイン法および目視観察法とし、調査ラインはおよそ 300m とした。平成 8 年度は約 10 分間、平成 9 年度は約 20 分間歩きながら、出現する中・大型哺乳類を姿、痕跡、声などにより確認した。

表 1-6-1 調査地の位置、調査日時等 (北海道)

項目	詳細
調査地点 (ライン)	A 地点：ウトナイ湖西岸トキサタマップ河口付近 B 地点：ウトナイ湖北岸広葉樹二次林 C 地点：ウトナイ湖南東岸砂丘林 D 地点：ウトナイ湖北岸美々川流入口 E 地点：ウトナイ湖南岸美々川流出口
調査日	平成 8 年度：1 日ずつ 2 回 1996 年 8 月 28 日、10 月 2 日 平成 9 年度：1 日ずつ 3 回 1997 年 5 月 7 日、6 月 27 日、1998 年 2 月 13 日

1-6-2. 調査結果

調査の結果、種・地点ごとの痕跡確認数を表 1-6-2 に、調査記録を表 1-6-3①～表 1-6-3②に示した。痕跡の確認は、平成 8 年度に 18 例、平成 9 年度に 35 例であり、痕跡が確認されたのはキタキツネ、エゾシカ、エゾユキウサギ、ミンク、シマリス、エゾリス、ヒグマの 7 種であった。これらの確認種には貴重種は含まれなかった。

痕跡確認数が最も多かったのはキタキツネで、痕跡確認数は 26 例、次いで多かったのがエゾシカの 19 例であった。その他の 5 種は痕跡確認数が 1 例～3 例と少なかった。

キタキツネとエゾシカについて痕跡確認地点を見ると、キタキツネはどの調査地でも痕跡が確認されているが、エゾシカはいずれも樹林地を背景としている調査地点 A および C において多数痕跡が確認された。その他の痕跡確認数が少ない種については、エゾユキウサギ、エゾリス、ヒグマがいずれも調査地点 C においてのみ確認されており、調査地点 C は中・大型哺乳類の痕跡確認種数も最も多い地点であった。その他ミンクは調査地点 E で、シマリスは調査地点 B でのみ痕跡が確認された。

調査地点別の中・大型哺乳類の痕跡確認数を比較すると、調査地点 C (ウトナイ湖南東側樹林地の砂丘) における痕跡確認数が最も多く 19 例で、次が調査地点 A (ウトナイ湖西岸トキサタマップ河口) の 13 例、次いで多かったのが調査地点 E (ウトナイ湖南岸美々川流出口) であった。これは猛禽類調査の結果、調査地点 B および D において猛禽類の確認数が多かったのと全く逆の結果であった。

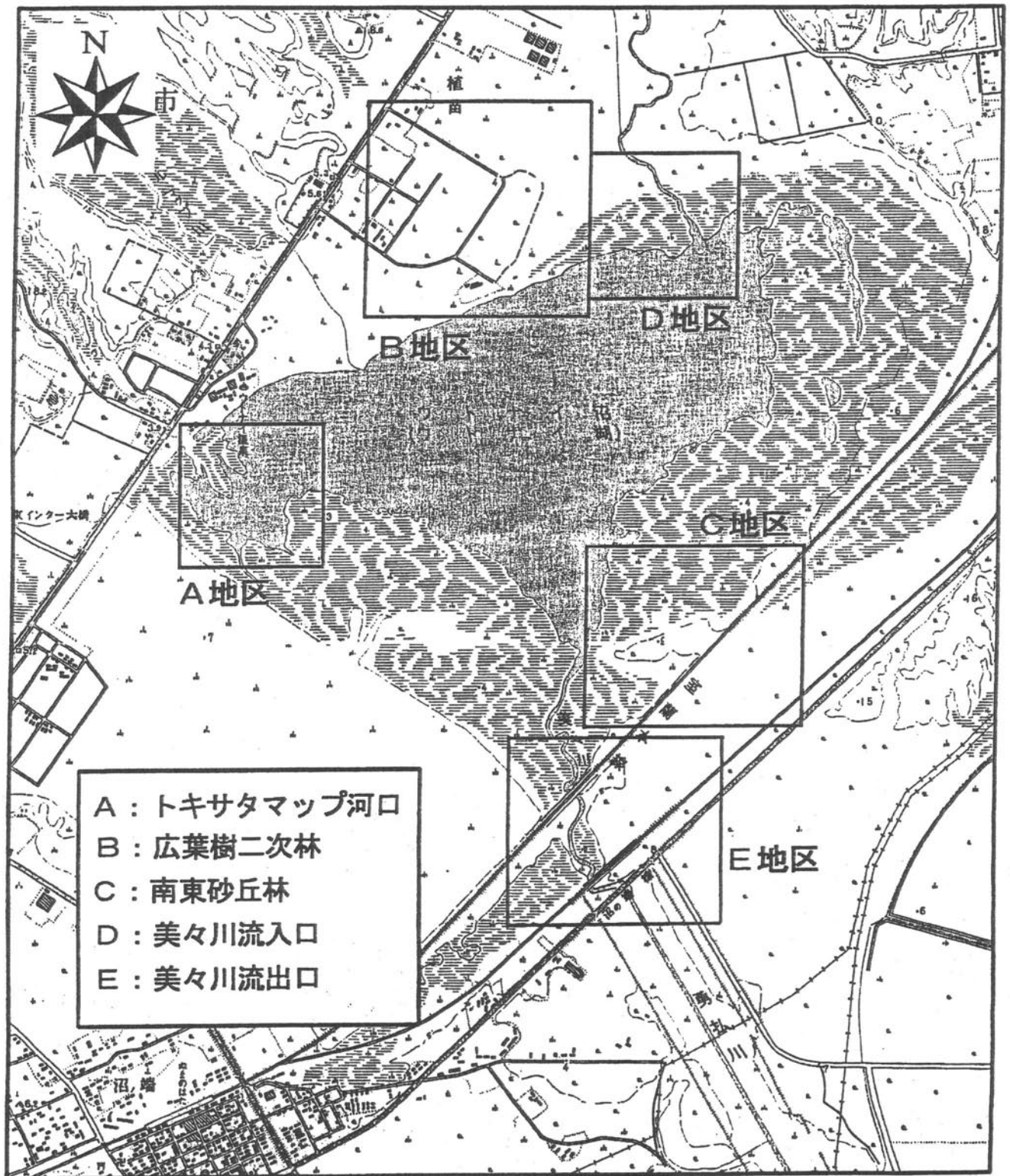


図 1-6-1 中・大型哺乳類調査地位置図

また、大型哺乳類であるヒグマについて、平成8年度に調査地点Cで足跡が確認された後、北大苫小牧演習林によって追跡調査が行われた。その結果、穂別、勇払、恵庭、支笏湖の範囲で行動が確認され、この地域がヒグマ等の大型哺乳類動物のコリドーとして機能していたことが確認された。平成9年度調査では確認されなかったが、その後も専門家の追跡調査により、依然として勇払川付近に生息していることがわかっている。

表 1-6-2 中・大型哺乳類の種・地点ごとの確認数（北海道）

種名	A地点	B地点	C地点	D地点	E地点	合計
キタキツネ	5	2	9	5	5	26
エゾシカ	8	0	6	1	4	19
エゾユキウサギ	0	0	2	0	0	2
ミンク	0	0	0	0	1	1
シマリス	0	3	0	0	0	3
エゾリス	0	0	1	0	0	1
ヒグマ	0	0	1	0	0	1
種数	2	2	5	2	3	7
合計	13	5	19	6	10	53

注1：表中の数字は、2年度を通じた観察例の回数を示す。

表 1-6-3① 中・大型哺乳類ライン調査結果（北海道）

番号	調査日 天候	時間	地点 番号	種名	確認方法	確認状況
1	1996.8.28 晴れ	10:40～ 10:50	D	エゾシカ	フィール	足跡
2				キタキツネ	ドサイン	古い糞
3		11:30～ 11:40	B	キタキツネ	フィール	におい
4				シマリス	目視	樹木の根本を横断
5		15:00～ 15:10	A	キタキツネ	フィール	古い糞、新しい糞
6				エゾシカ	ドサイン	砂地に足跡多数
7		14:00～ 14:10	E	キタキツネ	フィール	新しい糞
8				エゾシカ	ドサイン	足跡数頭分
9		13:30～ 13:40	C	エゾシカ	フィール ドサイン	足跡多数
10				ヒグマ		当日または前日の足跡。雄の成獣
11	1996.10.2 晴れ	11:50～ 12:00	D	キタキツネ	フィール ドサイン	糞
12		14:30～ 14:40	A	エゾシカ	フィール	足跡数頭分
13				キタキツネ	ドサイン	糞
14		14:00～ 14:10	E	エゾシカ	フィール	足跡数頭分
15				キタキツネ	ドサイン	古い糞、新しい糞
16		13:40～ 13:50	C	エゾシカ	フィール ドサイン	足跡多数
17				キタキツネ		足跡
18						新しい糞2カ所
19 ・ 20 21 22	1997.5.7 晴れ	13:40～ 14:00	A	エゾシカ：2例	フィール ドサイン	足跡
				キタキツネ	目視	湿地帯
				エゾシカ	フィール ドサイン	橋の下での足跡
23		13:10～ 13:30	B	シマリス	フィール ドサイン	木の根元での堀跡
24		10:55～ 11:15	C	エゾシカ	フィール ドサイン	新しい足跡
25				キタキツネ		古い足跡
26				エゾリス		新しい足跡
27				キタキツネ		新しい足跡
28				エゾシカ		新しい足跡
29		12:30～ 12:50	D	キタキツネ	フィール ドサイン	乾いた糞
30		11:20～ 11:40	E	キタキツネ	フィール ドサイン	新しい足跡
31				ミンク		
32				エゾシカ		

表 1-6-3② 中・大型哺乳類ライン調査結果（北海道）

番号	調査日 天候	時間	地点 番号	種名	確認方法	確認状況	
33	1997.6.27 晴れ	13:35～ 13:55	A	エゾシカ	フィールド サイン	乾いた糞	
34				キタキツネ		1～2頭分の足跡	
35				エゾシカ		数頭分の足跡	
36							
37		14:10～ 14:30	B	シマリス	フィールド サイン	堀跡	
38		12:35～ 12:55	C	エゾシカ	フィールド サイン	数頭分の新しい足跡	
39				キタキツネ		足跡	
40				キタキツネ		砂丘面に2カ所浅い堀跡	
41				キタキツネ		砂丘面に深い穴と浅い穴	
42				エゾシカ		数頭分の足跡	
43		12:00～ 12:20	D	キタキツネ	フィールド サイン	乾いた糞	
44		13:00～ 13:20	E	エゾシカ	フィールド サイン	新しい足跡	
45	1998.2.13 晴れ	9:10～ 9:20	A	キタキツネ	フィールド サイン	足跡	
46		9:20～ 9:40		エゾシカ		足跡	
47		8:00～ 8:30	B	キタキツネ	フィールド サイン	足跡	
48		10:30～ 10:35	C	キタキツネ	フィールド サイン	足跡	
49		10:35～ 10:50		エゾユキウサギ		足跡・糞	
50		10:50～ 11:00		キタキツネ		足跡	
51		11:00～ 11:15		エゾユキウサギ		足跡	
52		6:30～ 7:30	D	キタキツネ	フィールド サイン	足跡および雪を掘って餌を 探した跡	
53		11:30～ 11:50	E	キタキツネ	フィールド サイン	足跡	

1-7. 土地利用の状況

第1回調査では、国土数値情報によって土地利用状況の解析を行った結果、北海道が相対的に自然度の高い地域であることがわかった。最大の割合を占めるのは「森林」で約56%、次いで高い割合を占めるのは自然度の比較的高い「荒れ地」(約27%)であり、これらの相対的に自然度の高い地域をあわせると80%を越えた。

第2回調査では、土地利用図(図1-7-1)は作成したが、土地利用の状況のとりまとめが行われなかった。土地利用図を見ると、第1回調査時と同様に、広葉樹・針広混交林が比較的広い面積を占めた。

1-8. 大規模開発の状況

第2回調査では、大規模開発分布図(図1-8-1)は作成されたが、大規模開発の状況のとりまとめは行われなかった。

図1-8-1によると、以下の4つの開発事業が行われた。

- ①桂ゴルフ場の新設(完了)
- ②苫小牧カントリーゴルフ上の新設(完了)
- ③勇払川改修工事(平成元年着手、実施中)
- ④苫小牧東部工業基地の造成(一部未着手)

1-9. 人口の推移の状況

広域モニタリング調査地域の人口分布図を図1-9-1に、年代別人口を表1-9-1に示した。

人口分布は南部の市街地に集中し、その他国道36号線、千歳線に沿った地域およびゴルフ場にある程度の分布が見られた。

昭和60年と平成2年とを比較すると、昼間人口は約2000人増加し、これは昭和60年の昼間人口の約28%にあたった。それに比べて夜間人口の増加は約160人と少なく、労働者やレクリエーション等による昼間人口の増加に比べ、定住者の人口の増加が少なかった。

地域ごとにみると、南西部の明野地区やゴルフ場建設地、北東部の農村地帯で人口が増加し、丹治沼周辺では減少した。

平成2年の夜間人口と昼間人口を比較すると、全体としては昼間人口が夜間人口を上回った。これは苫小牧市の産業地帯の一部が調査地域に含まれていること、大規模なゴルフ場が造成されたこと、一般住宅地がこの地域に少ないことなどによる。夜間人口が昼間人口より多かったのは北東の農村地帯であった。

表1-9-1 広域モニタリング調査地域の人口推移(北海道)

調査年	昼間人口(人)	夜間人口(人)
昭和50年	—	3,974
昭和60年	6,819	4,069
平成2年	8,705	4,226

